

人と魚と海のネットワーク
 香川県漁連ホームページ
<http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/>
 E-mail:gyoren@kagawa-gyoren.or.jp



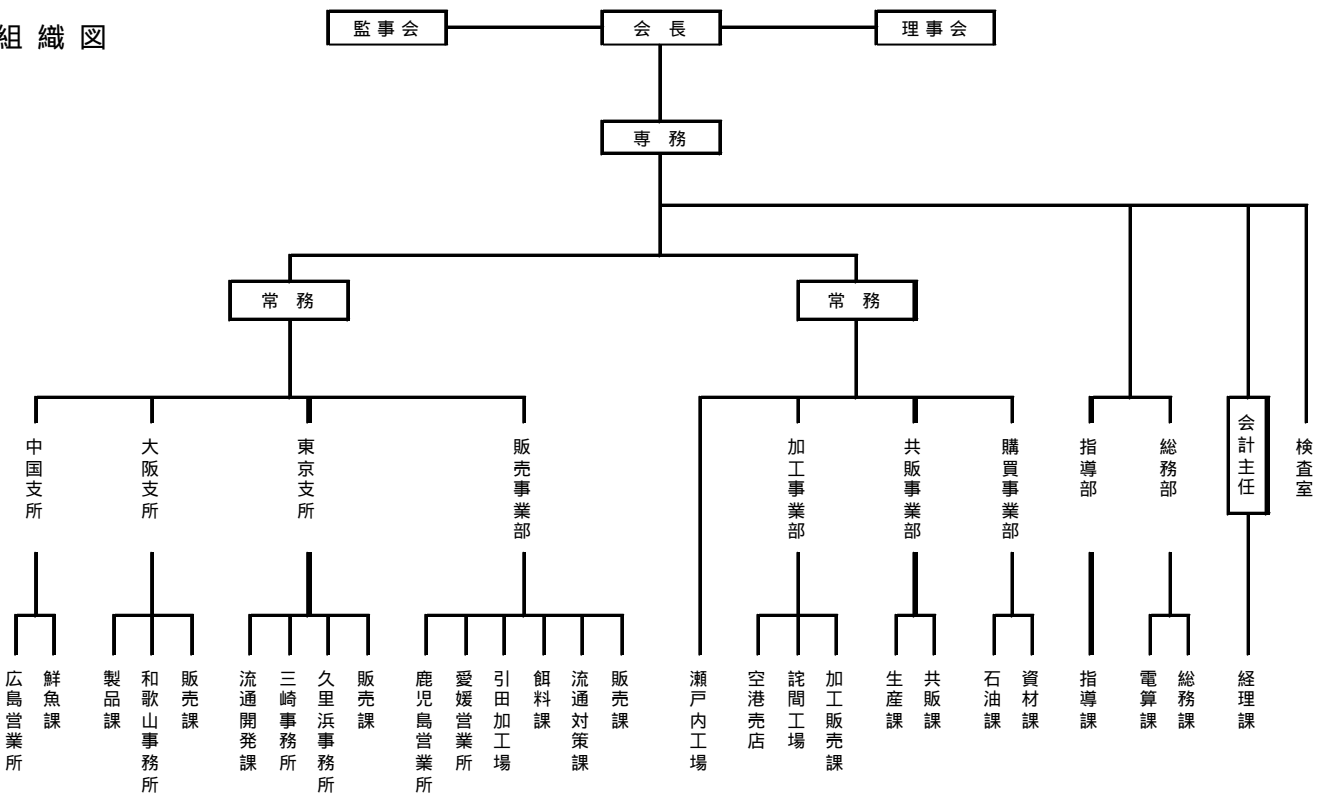
JF 香川漁連
 高松市北浜町 8 - 25
 TEL 087-825-0350
 FAX 087-851-0699

平成20年度新組織

機構改正

- 1) 大阪支所和歌山営業所を和歌山事務所に変更
- 2) 中国支所岡山営業所、福岡営業所を廃止し、業務を中国支所鮮魚課に移管

組織図



主な人事

氏名	(新)	(旧)
香川 哲広	(社)香川県水産振興協会へ出向	香川漁連運輸(株)へ出向
永島 浩一郎	共販事業部部長	指導部部長
山本 哲司	指導部部長	総務部次長
有田 博一	販売事業部鹿児島営業所所長	瀬戸内工場
鍋嶋 築奇	香川漁連運輸(株)へ出向	販売事業部引田加工場
玉木 哲夫	総務部次長	購買事業部石油課課長
滝谷 芳照	購買事業部次長(資材課課長兼務)	購買事業部資材課課長
山本 秀敏	加工事業部次長	加工事業部加工販売課課長
西滝 丈二	購買事業部石油課課長	購買事業部石油課課長補佐
宮本 交	検査室	経理課課長
岡本 慶子	(社)香川県水産振興協会へ出向	総務部総務課課長
橋本 明子	総務部総務課課長	総務部総務課

下山 友三	大阪支所製品課課長補佐	大阪支所販売課係長
阿部 真士	加工事業部加工販売課	販売事業部鹿児島営業所所長
山下 照夫	中国支所鮮魚課	中国支所福岡営業所所長
算用子 一登	東京支所販売課係長	東京支所販売課
岩井 克人	東京支所販売課係長	東京支所販売課

野網和三郎生誕100年・ ハマチ養殖80周年記念式典開催

本年は、日本のハマチ養殖の先駆者、野網和三郎氏(愛称:ワーサン)の生誕100年にあたり、同時に東かがわ市引田の安戸池でハマチ養殖が始まって80周年という節目の年である。これを契機に、平成19年度には「野網和三郎生誕100年・ハマチ養殖80周年記念事業実行委員会(構成:香川県漁業協同組合連合会、香川県かん水養殖漁業協同組合、引田漁業協同組合、香川県、東かがわ市)」を設立し、記念事業や試験研究に取り組んできた。

この記念事業のメインイベントである記念式典が去る平成20年3月2日(日)に東かがわ市の「ベッセルおおち」で盛大に開催された。式典には、服部実行委員会会長をはじめ主催者側からは真鍋県知事や和泉県教育長、東かがわ市長などが出席、さらに重水産庁増殖推進部長をはじめ県選出の国会議員等多くの来賓が出席し、約500人の参加が得られた。参加者には、今回特別に発刊した野網和三郎生誕100年・ハマチ養殖80周年記念誌とともに地元東かがわ市の土産品を贈呈した。

式典では、主催者および来賓者の挨拶の後、(社)大日本水産会の中須会長より魚類養殖の礎を築いた故野網和三郎氏に対して顕彰状が授与(引田漁協が代理受理)され、盛大な拍手があった。引き続き「ワーサン100作品展」の入賞者に対する賞状授与、引田小学校6年生5名によるハマチ養殖体験発表が行われた。そして最後は、「野網和三郎氏と水産増殖への夢・期待」と題して近畿大学水産研究所の熊井所長による記念講演が行われ、野網氏の始めた魚類養殖が今ではマグロ養殖にまで発展しており、野網氏の功績の偉大さを示す講演があり、参加者は熱心に拝聴した。

式典終了後は、記念事業実行委員会の加工品開発研究会で開発された、ハマチの加工品4品を盛り込んだ「ハマチ彩弁当」が参加者全員に振舞われて好評を博した。

その後参加者は、実行委員会が手配したバス等に

乗り込み、引田町安戸池で開催していた「安戸池ワーサンにぎわい市」やマーレリッコで開催していた野網和三郎遺品展を視察した。



記念式典オープニング風景

「安戸池ワーサンにぎわい市」が盛大に開催された

記念式典の開催にあわせ、ハマチ養殖発祥の地「安戸池」では、記念イベントとして「安戸池ワーサンにぎわい市」が3月1日(土)2日(日)開催され、漁協女性部等により特産品の販売やおさかなシャトルによるゲーム等が行われ、またマーレリッコでは、野網和三郎遺品展も開催された。3月1日(土)は強風によるあいにくの天候であったが、2日(日)は好天に恵まれ、式典参加者をはじめとして一般県民等、約6千人の来場者があり成功裡に幕を閉じた。



ハマチ漁師鍋試食(引田漁協女性部)

第33回全国海水養殖シンポジウム開催

第33回全国海水養殖シンポジウム(主催:全国海水養魚協会、共催:香川県かん水養殖漁業協同組合)が、3月1日(土)、本県高松市のサンポートホール高松で「かがやく海 未来へ残そう養殖業」をメインテーマに、「がんばれ!ニッポンの養殖魚!」をサブテーマとして開催しました。折しも魚類の海水養殖が始まって80周年の記念すべき年であり、その記念式典を翌日に開催したこともあり、全国から海面養殖生産者をはじめ業界関係者ら多数の出席がありました。

会は本県かん水の松岡理事の開会宣言で幕開け、まず主催者を代表して嶋野会長の挨拶で始まった。中でも「売上の75%を占める餌代の高騰が養殖業者の死活問題となっている。一方、スーパーや量販店主導による仕入れ価格の低準化が蔓延し、生産コストの上昇分が生産者側にのみ積み残される形となっており、養殖経営状況は崩壊寸前であります。このような現状を打破すべく、国・行政・生産者らが何を考え、何をなすべきかをそれぞれの分科会で大いに議論して頂きたい」と強い口調で述べた。続いて、来賓の水産庁田辺義貴栽培養殖課長、真鍋武紀香川県知事、服部郁弘香川県漁連会長、大西秀人高松市長が挨拶、シンポジウムの成果を大いに期待する旨の祝辞を頂いた。

その後の基調講演では、テーマに基づき「養殖業の今後のあり方について」と題して鹿児島大学、佐野教授の講演を頂き、引き続き行われた分科会は、4つに分かれてのパネルディスカッション形式で行われた。昨年に継続して行った消費者を対象とした第1分科会では「養殖魚をもっと知ろう。健康・安全・安心」をテーマとし、我々の積極果敢なテーマへの取り組みを理解してもらうため、養殖の現場を伝えたいとし開催、また第2分科会では、「ブリ類の生産原価の確保に向けて」をテーマにして、直面する業界の現状に一体感と危機感を持って議論がなされた。また同様に第3分科会ではマダイについて、第4分科会ではトラフグについてと魚種毎に、それぞれの生産者と関係者の間で意見交換がなされた。

閉会式では各分科会の座長により内容結果報告がありその後、次回開催県の大分県水産養殖協議会津田林夫会長へ大会旗が引き渡された。津田会長は「自分も養殖業者の一人として、厳しい環境下に置かれていることを実感している。全国の同胞が一丸となってこの困難に打ち勝ちましょう。そして来年の大

分のシンポジウムでは皆様笑顔で再会しましょう」と力強い閉会宣言を行い、第33回のシンポジウムは幕を閉じた。

「ワーサン100作品展」 作品発表

市長賞



東かがわ市立相生小学校6年 三谷 和之 さん



東かがわ市立本町小学校3年 長町 翼 さん

主な行事予定(4/1~4/30)

- 4月 1日(火) 新入職員入会式
棚卸監査
- 1~4日 新入職員研修

新人職員奮闘記

「販売事業部販売課にて」 藤原 平

平成19年度より販売事業部販売課でお世話になっております藤原平です。以後よろしくお願い致します。

私が本会に入会してからはや1年が経とうとしています。入会以来、見るもの聞くものすべてが全くの初体験であり、毎日が驚きと戸惑いの日々でした。

まず、4月に愛媛県と高知県で養殖魚種苗の出荷作業に立ち会いました。ここでは帳面のつけ方から小割の生簀での網の上げ方、ロープの結び方などと出荷作業に必要不可欠な知識を学びました。ハマチの生船での出荷作業やタイの数取りも見たことの無い光景ばかりだったので、目の前の光景にただ圧倒されていたのをよく覚えています。

種苗出荷作業が終わると、瀬戸内地区での込網漁で獲れたナシフグやトラフグ、シリヤケイカやマナガツオの水揚げ作業が始まりました。この仕事は出荷時間が深夜の作業ということもあり体力的に厳しい面もありましたが、現場や事務所で疲れを見せず働く上司の方々を見て、自分も負けていられないと思いました。今年は例年に比べてナシフグが豊漁であり、次から次へと漁船からでてくる魚を見て、瀬戸内海にはこんなにもいるものなのかと非常に驚きながら仕事をしました。

この仕事と平行して、定置網で獲れた魚の出荷作業を手伝いました。定置網ということもあり様々な魚種が揚がってくるのですが、どの魚も高い安い関係無く漁師の方に一生懸命獲ってきていただいた大切な魚ですから、1尾1尾を大切に扱い無駄にすることなく丁寧に仕立てる事を心掛けて出荷しました。同じ魚種でも鮮度や仕立て方一つで市場で売れる値段が大きく変化しますから、魚を箱に立てる際には魚のサイズを揃えてきれいに並べる事、氷焼けしないようパチを丁寧に貼る事、氷で魚を圧迫しない事などと、少しの事ですが漁師の方に少しでも良い値で返せるよう、注意をしています。

お盆と年末年始には引田加工場で出荷作業から作業、加工場内のフィレ作業を手伝いました。特に魚の作業は初め魚をつかむこともままならない私でしたが、上司の方が私のペースに合わせながら、優しく指導してくださったおかげで、ゆっくりですが確実にやる事ができるようになりました。

夏が終わり、9月から県内養殖魚の出荷作業が始

まりました。今年は魚価の低迷や燃油価格の高騰などといった諸問題がありましたが、春の種苗出荷作業での経験を活かし、養殖業者が手塩にかけて育てた大切な魚を傷つけたり殺さぬよう、水温や取り網の締めすぎに注意を払いました。今年は例年に比べ高水温期が長く、水温変化に弱いハマチの出荷では生船に放水をお願いしたり、早目に酸素を出してもらったりするなど細心の注意を払いました。

4月から本会に入会してから2年目に入りますが、組合の方々を始め、漁師の方々や業者の方々の信頼を得ることはもちろんのこと、少しずつ営業を覚えていき、上司の方々をサポートしていけるよう、日々がむしゃらに努力いたしますので皆様のご指導の程、よろしくお願い致します。

～ ● ～ ● ～ ● ～ ● ～ ● ～ ● ～ ● ～ ● ～ ● ～ ● ～ ●

「販売事業部販売課にて」 青木 未来

平成19年度より販売事業部販売課にてお世話になっている青木未来です。以後よろしく申し上げます。

私が香川県漁連に入会してはや1年が経ちましたが、この1年は本当にあっという間に過ぎたように感じています。

私は、販売課に配属されたものの何をどうすればよいのかなど仕事の内容も全く分からない状態でした。毎日、新しい仕事を貰いながら、先輩方に指導していただきました。何もかもが初めての経験だった私は、何回も質問をしていたような気がします。そのおかげで仕事の流れや進め方は少しずつではありますが、理解できるようになっていきました。

しかし、仕事を始めて1年経った今でもまだまだ分からないことが多くて、助けてもらわなければ自分だけでは解決できないため、先輩方には迷惑のかけ通しです。また、自分のことで精一杯でお客様など周りの方々への気配りが出来ていないこともあります。

そんな私ですが、これからもっと先輩方を見習って事務処理の仕事においても、お客様などへの気配りにおいても、早く一人前にこなすことができるように日々努力していきたいです。そして、香川県漁連の一員としての責任感を持ち、本会に少しでも貢献できるように成長していきたいと思っています。

まだまだ未熟で至らないところが多い私です。これからも皆様にはご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、頑張っていきたいと思っていますので、皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。